

井手町人口ビジョン及び第3期井手町地域創生計画（中間案）に係るパブリックコメントで寄せられた意見とそれに対する本町の考え方

No.	提案者	意見要旨	本町の考え方
1	1人目	<p>こんなのがあったらいいと思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍食品の自販機24時間購入可能なもの、出来れば野菜スープと主食になるもの ・自販機に白湯(粉ミルクを作る、薬飲むのに重宝) ・駅前からレンタル電気自転車 1日1500円くらいで借りれる場所、返す地点は井手町内に複数あるといい ・乾電池を捨てられる回収ボックスがテオテラスにあればついでに買い物しそう ・家事代行サービスの利用補助(相談支援よりありがたいらしい) ・桜の時期の駐車スペース ・夜11時までやってる飲食店 ・大きい本屋+雑貨屋みたいな店 ・高台なので夜景が見える場所 ・特産品や旬のものを感じられる空間 	<p>本町としても、地域住民の皆さまが住みやすく、利便性の高い環境づくりに取り組むとともに、まちの持つ資源を生かしたにぎわいの創出を図ってまいりたいと考えておりますので、いただきましたご意見について今後の具体的な事業展開に向けて参考とさせていただきます。</p>
2	2人目	<p>最近井手町に引っ越しさせていただき、実際に暮らしてみて、井手町は本当に「子育てがしやすい町」だと実感しています。</p> <p>小さな町だからこそ、子供たち一人ひとりに目が届き、手厚く見守っていただける安心感。そして、子育て世帯を支えてくれる数々の補助制度。これらは私たち家族にとって、何物にも代えがたい物だと感じています。この素晴らしい環境をさらに活かし、もっと活気ある町にしていくために、一住民として、また一事業者としての願いをまとめました。</p> <p>1. 「住みたくても住めない」をなくすために</p> <p>移住してきた立場から見て、一番もったいないと感じるのは「井手町に住みたい」と思ってくれる人がいるのに、ちょうどいい家がなかなか見つからないことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 売りたい・貸したい人への後押しを <p>今の空き家バンクを、もっと使いやすく、そして家を手放そうか迷っている所有者さんにとっても「得になるような仕組み」に進化させてほしいです。例えば、お片付けの補助や税金の優遇など、最初の一歩を出しやすくする工夫が必要だと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「古い家でも安心」という太鼓判を <p>「古い木造の家は地震が心配」という方も多いです。移住者がリフォームや耐震工事をするときに、町がしっかり背中を押してくれるような補助が充実すれば、もっと若い世代が移住しやすくなるはずですよ。</p>	<p>本町では、これまで空き家バンクの運用や空き家の残存家財撤去費用の補助事業などを行ってまいりましたが、移住者の受け皿となる住宅確保に向けてより一層空き家の有効活用を促す取組が必要であると認識しており、良好な住宅の確保に向けて、P31に具体的施策として、空き家の所有者等に対する支援策の検討などを掲げております。</p>
3	2人目	<p>2. 「また来たい」と思われる駅前とアクセスの改善</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「点」ではなく「線」でつなぐ楽しさを <p>駅前に来てくださった方が、そのまま町内の飲食店や素敵なスポットを歩いて回れるような、ワクワクする動線（案内や仕掛け）を作っていきたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「遠回り」を感じさせない工夫を <p>京田辺などの近隣からも、現状は少し遠回りをしないと来られないのがもったいないと感じます。アクセスの不便さを解消し、心理的な距離をもっと縮めるような道路や案内の整備を、ぜひ検討して頂きたいです。</p>	<p>本町としても、町内外の人々がまちを周遊する仕組みづくりを行いたいと考えており、P27・28に具体的施策として町の新たな魅力づくりや駅等における観光案内機能の強化に向けた取組を掲げております。交通アクセスにつきましても、P31・32の具体的施策に掲げておりますとおり、道路交通網等を充実していけるよう引き続き取り組んでまいりたいと考えております。</p>

4	2人目	<p>3. 次の世代（30代・40代）の声を仕組みづくりに 町の未来を作っていくのは、今まさに子育てをし、働いている世代です。</p> <p>* もっと気軽に意見を言える場を</p> <p>私たち30代・40代の現役世代が、日々の暮らしの中で感じる「もっとこうなればいいのに」というアイデアを、素早く町の仕組みに取り入れてほしいです。今の時代に合った、柔軟でスピード感のある改善を期待しています。</p>	<p>今回の計画改定におきましても、若い世代をはじめ地域住民の皆さまのご意見を計画や施策に取り込むことができるように、ワークショップの開催や住民アンケートの実施を行ってまいりました。</p> <p>今後とも、さまざまな機会を通じて地域住民の皆さまの意見をお聴きし、計画や施策への反映ができるように努めてまいります。</p>
5	3人目	<p>人口減少対策計画を拝見し、制度や施設を整えることだけでなく、「子育て世代や支える人の時間と気持ちに余裕をつくる視点」が、これからはより大切だと感じました。</p> <p>現在、地域では玉川の保全活動や見守り、子育て支援など、多くのことがボランティアによって支えられています。ただ、善意だけに頼る形では、続けたくても続けられない場面もあります。川の整備やファミリーサポートなども、無償ではなく町の仕事として仕組み化し、子育てや介護で長時間働けない人でも、短時間で関わられる雇用につなげていただけたらと思います。</p>	<p>本町では、人口減少の傾向が当面は継続することが想定される中、地域住民だけでまちづくりを進めることには限界があると考えており、P19・20の計画の基本視点にも記載しておりますとおり、町外の人材の活用や関係人口の増加による担い手の確保などの取組を行うことで、地域の機能や産業等を持続可能なものにしていきたいと考えております。</p>
6	3人目	<p>井手町には空き家や空き施設が増えています。むすび屋さんのような場所を、空き家対策の一つとしてリサイクルショップや作業拠点に活用し、必要な人に必要な物が届く町の循環をつくってほしいです。</p> <p>旧町役場などを活用し、「今は助けてほしい人」と「少しなら働ける人」をつなぐ、町のお助け仕事の窓口のような拠点があれば素敵だと感じます。商工会とも連携し、シール貼りや袋詰めなどの軽作業を集める仕組みができれば、町の中で人と仕事が回り始めると思います。その中で、井手町にある支援学校の卒業生が安心して関わられる仕事の場もつくってほしいです。正規雇用が難しくても、得意なことを活かして少しずつ社会とつながれる環境は、本人の自立と町への定着につながると思います。耕作放棄地についても、個人任せにするのではなく、役場が管理し、町の仕事として活用することで、雇用づくりと景観保全の両立につながると思います。</p> <p>子育て中の母親が、未就学児を連れて集まり、話をしたり作業をしたりできる「お母さん達のアトリエ」のような場所も、収益性だけで判断せず、空き施設などを活用して支えていただけたらと思います。孤立防止や定住促進にもつながると感じます。</p>	<p>本町としても、地域活性化に向けた空き家や耕作放棄地等の活用は重要な課題の一つと考えており、P26の具体的施策にも掲げているとおり、若者や子育て世代などの働く場やコミュニティの環境整備に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。</p>
7	3人目	<p>保育園の入所書類は毎年同じ内容をたくさん書く必要があり、保護者の負担になっています。変更箇所だけをタブレットなどで訂正できる仕組みがあれば助かります。また、きょうだいで別々の園に送迎しなければならぬ状況も、できる限り負担が減るよう配慮してほしいです。</p> <p>お母さんの仕事を減らすことは、楽をすることではなく、子どもと町の未来への投資だと思っています。人の力が無理なく循環する井手町を、町民と一緒につくっていただけたら嬉しいです。</p>	<p>本町では、P21から23までに掲げる具体的施策のとおり、今後とも子育て世帯が安心して子育てを行えるよう、子育て・教育に伴う経済的負担や不安の解消に向けて取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>なお現在、町内3保育園のあり方についても検討していく時期であると認識しておりますので、いただきましたご意見も踏まえながら、より良い保育・教育サービスができるよう努めてまいります。</p>
8	4人目	<p>町外から井手町へ移住し、現在は町内で事業を営む立場から、現場で感じていることを踏まえ、本計画がより実効性のあるものとなることを願い、提案と質問をさせていただきます。第4章の取り組むべき施策の基本目標の内容には概ね賛成で、意見は特にありません。</p> <p>井手町の強みは「これから造るもの」だけでなく、「すでにあるもの」にあります。人口増加のビジョンは観光の間口を広げること、既存資源の磨き上げと発信力の強化こそが、持続可能なまちづくりの基盤になると考えます。</p> <p>「古き良き井手町を次世代へ繋ぐ」をテーマに観光の骨格をつくるための「町の誇りを可視化する仕組み」が必要と考えました。井手町の観光資源のポテンシャルを十分に活かすためには、単発の事業ではなく、継続的かつ戦略的な情報発信体制の構築が不可欠であると考えます。</p> <p>1. 観光推進体制の明確化</p> <p>観光施策を専門的かつ継続的に推進するため、「観光」に特化した担当部署または機能の明確化を図ることが必要ではないでしょうか。</p>	<p>観光はまちづくりと密接に関わることから、現在は企画財政課が所管部署として観光振興の取組を行っております。</p>

9	4人目	<p>2. 駅前施設の機能再編による情報発信拠点化</p> <p>駅前位置する「さくら」のある施設について、従来の利用イメージに加え、観光案内機能を強化し、行政施設の町の玄関口としての役割を明確にしてはどうか。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井手町の観光パンフレットの常設 ・町を紹介されたことのあるメディア媒体の設置（雑誌や本など） ・各まちづくりボランティア団体のきめ細やかな紹介コーナーの設置 ・商工会と連携し、町内商店・事業所の案内資料の設置 ・いでたんグッズや町の特産・関連商品の販売 ・年間を通してイベントスケジュールなどを取りまとめ <p>などを行うことで、訪問者が町全体を回遊するきっかけを創出できると考えます。</p>	<p>玉水駅前休憩所さくらについては、住民相互の交流や観光振興を目的に指定管理の団体により運営しているところではありますが、いただきましたご意見について、計画に掲げております既存の交流拠点の魅力向上の取組の中での参考にさせていただきます。</p>
10	4人目	<p>3. 観光コーディネーターの配置</p> <p>案内所には、来訪者とのコミュニケーションを通じて町の魅力を伝えられる「人材」を配置することが重要です。特に、柔軟な発想と発信力を持つ若い世代を観光コーディネーターとして配置することで、町のイメージ刷新や外部との接点拡大が期待できます。</p>	<p>既存の交流拠点を充実し、大学や町内団体等との連携による交流事業を展開していく中で、将来的にまちの観光交流事業の核となる人材の育成を目指してまいりたいと考えております。</p>
11	4人目	<p>4. 継続的な情報発信の強化</p> <p>SNS等を活用し、日常的に町の様子を発信する体制を整えることも重要です。</p> <p>テオテラス、むすび家、椿坂、大正池グリーンパークといった拠点のみならず、町内商店や民間事業者への定期的なインタビューや取材を行い、町の“公式メディア”のような存在として情報を蓄積・発信していくことが望まれます。</p> <p>観光とは一過性のイベントではなく、町の物語を伝え続ける営みでその継続と対話が関係人口の増加と町への愛着形成につながるものと考えます。</p> <p>将来を見据えた基盤整備はもちろん重要ですが、開通時期が未定の大型事業に依存するのではなく、現段階で既に存在する資源を活かし、今すぐ取り組める観光戦略を再構築、整備して並行して進めていく視点も必要ではないでしょうか。</p>	<p>本町としても、まちのプロモーションは重要な課題の一つと考えており、P28・29に掲げております情報発信の強化の取組や、大学等との連携による町内事業者等とのネットワークづくりを図ってまいりたいと考えております。</p>
12	5人目	<p><input type="checkbox"/>現在の18歳以下の住民に対する教育上あるいは医療面の優遇策継続</p> <p>具体的には給食費無償化(あるいは補填)、一定の医療機関受診費用の負担軽減策を少なくとも今後10年超継続すること。(アップグレード策も要具体化)</p> <p>※アップグレード策例→ボランティアによるそろばん等無償教室の開講</p>	<p>これまで取り組んできました子育て支援医療費助成や給食費無償化の取組については、P21から23の具体的な施策にも掲げておりますとおり、継続して取り組んでいくこととしており、今後とも子育て支援の充実に向けて取組を進めてまいりたいと考えております。</p>
13	5人目	<p><input type="checkbox"/>井手町域内の国道24号沿いの商業・集合施設の建築・開業</p> <p>→町内プラス周辺地域を対象とする「経済活動あるいは運動等の施設運営」による経済かつ人的交流の活性化を狙う施策</p>	<p>本町としても、今後予定される国道24号城陽井手木津川バイパスの開通も見据えながら、商業施設等の誘致に取り組んでまいりたいと考えており、P25の具体的な施策として掲げております。</p>
14	5人目	<p><input type="checkbox"/>高齢者の社会および就業参加を伴う、地域運行バス(例;玉水駅-三山木駅)</p> <p>専門職(例;農業・林業等一次産業系)による技能伝承機会設置といった、若手層にも魅力的な「地域特有サービス」体制の構築</p>	<p>本町としても、住民の誰もが生き生きと活躍できるまちづくりに向けて、世代や地域を超えた交流の促進や公共サービスの利便性の向上は重要と考えておりますので、いただきましたご意見について今後の具体的な事業展開に向けて参考とさせていただきます。</p>
15	5人目	<p><input type="checkbox"/>安心・安全な日常生活を維持かつ向上するための、社会インフラ(例;電灯の拡張設置)及び外国人生活者向けの地域教育施設</p> <p>→車による送迎(自宅⇄最寄駅等)に偏重しない社会インフラの整備による安心感増大</p>	<p>安心・安全なまちづくりを推進するため、P32・33の具体的な施策にも掲げておりますとおり地域の防災力の向上やインフラの整備について取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>また、外国人生活者向けの地域教育機関については、現在町内の日本語教室の支援等に取り組んでいるところであり、P33の具体的な施策にも掲げておりますとおり、誰もが活躍できる共生社会づくりに向けて取り組んでまいりたいと考えております。</p>